館山市立博物館報
ミュージアム発見伝
No. 93
2019.3.25
【本館】〒294-0036 千葉県館山市館山351-2 TEL0470-23-5212 FAX0470-23-5213
【渚の博物館】〒294-0036 千葉県館山市館山1564-1
◆開館からの観覧者（平成31年2月28日現在）
【本館・館山城】2,075,921名 【渚の博物館】1,004,806名

山間の村に水を引け

この図は市内の旧家から寄贈された資料で、明治20年代後半から30年代に房州を遊歴していた、福井県の寺田筠石という20代の絵師が、明治29年（1896）に描いたものです。

肖像の5人は館山市畑の人物たちで、明治13年（1880）に越地原の灌漑用水路を完成させたことを顕彰するために、後年にその子供たちが依頼したものでした。

畑区は館山市南東部に位置する山間集落で、長尾川が作り出した数多くの渓谷のあわいに屋敷と耕地が点在しています。川との高低差があるため水利に乏しく、天明2年（1782）作成の村絵図に見える田地といえば、水を得やすい山奥の小さな谷に開かれたものでした。その絵図からは水田を増やす努力も窺え、長尾川の川廻しで開かれたことがわかる田が描かれています。

しかし、用水路を開鑿してまで集落近くに田を開くには、渓谷の上流から隧道や掛樋を工事して、長距離の水路を引かねばならないため、なかなか手が付きませんでした。

それを可能にしたのは村の山川治助で、図の右下の人物です。彼の測量技術が用水路の開鑿を可能にしました。博物館には治助が使った水準器が残されています。20歳だった文久2年（1862）に、ひとつの堰から渓谷沿いに600mと500mの用水路2本をつくったのを手始めに、次々と用水路を開いたといい、畑区にある用水路の大部分は彼が造ったと伝えられています。

越地原では従来の畑だけのときに比べ、水田ができて三倍の収益になったことが賛に書かれています。その後も畑区の人々の暮らしを支えた用水路でしたが、恩恵を受けた水田も今は正月の日本を彩るセンリョウ畑に姿を変えています。

●特別展

「房州と江戸・東京
―海を行き交う人・モノ・文化―」

2月2日(土)～3月17日(日)

海で結ばれた関係を紹介

当館ではこれまで、観光や流通、海岸防衛などさまざまなテーマの特別展を開催してきました。3年ぶりに開催した今回の特別展では、これらのテーマを「房州と江戸（東京）との関係史」という切り口で捉え直しました。

商品流通を通じた交流

両地域の関係で最もイメージしやすいのが、江戸に運ばれた房州産の魚介類でしょう。鰹節産地ランキングである番付「かつほぶし位評判」（東京都立中央図書館蔵）には、磯村・江見・白子・忽戸などの外房の浦々が前頭としてランクインしています。安房の鰹は、歌川国芳の美人画シリーズ「山海めで度い図会」にも描かれており、よく知られた特産物だったようです。

ところで、文政2年（1819）に那古寺（館山市）の本尊である観音像の出開帳が江戸で行われますが、このとき忽戸村（南房総市）の観音講中の商人5名は、懇意の江戸商人ら27名に「ご信心」を依頼しています。依頼先の商人の業種には、鮮魚・干塩魚や鰹節、干鰯の問屋が多く見られ、忽戸村が、鰹節の取引を通じて日頃から交流があった江戸商人に、那古観音の「営業活動」を行っていたことがうかがえます。この那古寺観音出開帳に際しては、他にも江戸商人から「円通閣」の扁額が奉納されていますが、この奉納の背景にも、商品流通によって生まれた交流があったのかもしれません。

地域教育の充実

江戸時代後期の房州には、高いレベルの学問を学ぶため江戸に出る人々もいました。館山新井浦の儒学者・新井文山や谷向村（南房総市）の漢詩人・鱸松塘（すずきしょうとう）は、江戸幕府の大学頭を務めた林家の家塾に入門しています。彼らの特徴は自らが最先端の知識を得ただけでなく、それを故郷である房州に伝えたという点です。また、館山藩4代藩主の稲葉正巳も林家で儒学を学び、国元で新井文山の藩士登用や、幕府儒官を招いて藩校の設立を行うなど、儒学の学習・普及に積極的でした。

このように、江戸遊学を経験した知識人や、藩の方針により、房州の教育環境は整備されていきました。例えば、館山藩士の鈴木義章は、新井文山門人の松下綱挙に漢籍・習字を学んだ後、藩校「敬義館」で歴史・朱子学・漢詩を学び、廃藩後は小学校の教師になっています。全国共通の教育制度が成立していない時代においては、こうした取組みが地域の知を向上させたのです。

江戸職人の房州進出

館山市大井の手力雄神社本殿の彫刻は、江戸の彫工で将軍霊廟の御用を務めた高松又八が宝永6年（1709）頃に制作したものです。また、鴨川市の寺院には、高松又八の弟子である植村弥五左衛門が享保5年（1720）に制作した彫刻が伝わっています。このことは、18世紀前半の時点で房州の寺社が江戸の一流の彫工に発注ができるほどの資金力や人的関係を有していたことを示しています。また、真野寺（南房総市）では、宝暦6年（1756）の観音堂再建の際に江戸京橋の大工棟梁2名を迎えていますが、その棟札には、彼らの門弟として真野寺周辺の村々の大工が記載されています。江戸職人による房州進出は、江戸文化の房州への伝播や、江戸職人の営業圏拡大を示すとともに、地方への職人の技術伝承という意味でも重要でした。

特別展ではこのほか、観光地としての房州の変遷や、両地域間の移住など、さまざまな面から房州と江戸・東京の関係史を紹介しました。なお、本特別展は、船の科学館「海の学びミュージアムサポート」の対象となっています。

平成30年度の事業から

江戸時代の村の絵図が集合

新・地区展「豊房（とよふさ）―豊かな水と暮らす人々―」

市内10地区の歴史と文化財を紹介する「新・地区展」シリーズの第7弾として開催しました。

明治22年（1889）に館山平野南方の谷あいや山間にある12か村が合併した際に、安房で最も豊かな村になろうという願いを込めて命名した「豊房」には、程よく開けた谷がいくつも作り出され、水が豊富で豊かな稔りある村々が展開しています。

縄文時代から古墳時代にかけての遺跡が多くみられ、中世には鎌倉とつながりがある土地でした。それらのことからは、古い時代から小さな谷を開いて人々が生活をしてきたことがわかります。水と暮らし、水の伝説を残してきた豊房地区の暮らしや歴史を展示で紹介するとともに、谷に広がる歴史の痕跡を現地を歩いて探訪しました。

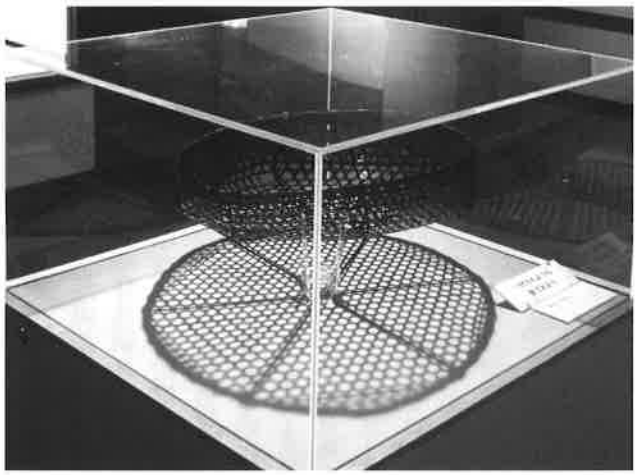
身の回りのもように注目

収蔵資料展「美しいもよう」

博物館の楽しみは知識を得ることだけではありません。本やインターネットと違い、実物をじっくり観察できることこそ、博物館のもっとも大きな特徴です。このおもしろさを皆さんに実感してもらうため、美術工芸品や日用品などさまざまな資料を「もよう」という切り口で紹介しました。

縞柄の着物やザルの網目、おめでたい柄の器や縄文土器のかけらなど、ふだんは一緒に並ばないさまざまな展示品をとおして、「もよう」の楽しさを体験していただけたでしょうか？

なお会期中には、館山市と「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」で連携している千葉大学デザイン文化計画研究室の協力により、ワークショップ「藍染でもようをつくろう」を行いました。



ピックアップ八犬伝

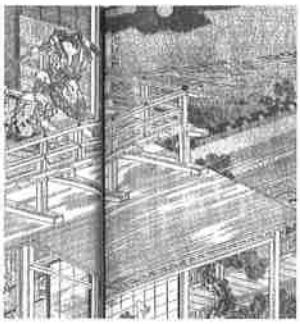
「対牛楼の毛野」

今年度購入したこちらの作品、明治時代の浮世絵師である山田年貞が描いた肉筆画で、表題は書かれていませんが、入手した古書店の目録には「石川五右衛門」とありました。

たしかに楼閣の上にいる姿は、歌舞伎「楼門五三桐」の一場面のようにも見えます。ただし本作は女性の姿で描かれており、左上の賛にも「婦人の服を着し」との文言が見えます。

そう、これは対牛楼（たいぎゅうろう）で戦う犬坂毛野なのです。八犬伝版本の挿絵と比べてみると、服装や建物の特徴、満月や松の配置までそっくりであることが分かります。

山田年貞は八犬伝の錦絵でも知られる月岡芳年の門人であり、本作を描いた背景には師芳年の影響もあったのかもしれません。



博物館のできごと〈ダイジェスト〉平成30年4月～31年2月

◆平成30年4月

1日 歴史体験教室「甲冑を着よう」開催（日曜・祝日実施）

28日 新収蔵資料展「あたらしい資料のご紹介」開催（～6月10日） 9513名

◆6月

6日 館山市文化財保護協会と「安房学講座」開催（全8回）

12日 歴史教室「古文書を読んでみよう」開催（全10回×3クラス）

20日 本館・館山城で施設くん蒸実施（臨時休館～25日）

30日 「ミュージアム・サポーター甲冑士養成講座」開催

◆7月

26日 「ハートネットTV」（NHK）撮影。館山城を紹介

28日 収蔵資料展「美しいもよう」開催（～9月24日） 8364名

◆8月

7日 図書館との共同企画「なつやすみ宿題大作戦」博物館編開催（図書館編は7月31日）

21日 金谷美術館へ八犬伝資料貸出

22日 和歌山県立紀伊風土記の丘へ大寺山洞穴出土遺物貸出

25日 歴史教室「活弁八犬伝」開催（全2回）41名参加

◆9月

5日 博物館実習1名（～11日）

10日 館山城に「八房と狸」像展示

11日 群馬県立土屋文明記念文学館へ八犬伝資料貸出

24日 県立中央博物館大多喜城分館へ館山藩士所用兜ほか貸出

◆10月

6日 新・地区展「豊房―豊かな水と暮らす人々―」開催（～11月25日） 6493名

11日 富山県水墨美術館へ岩崎巴人作品貸出

25日 「偉人たちの健康診断」（NHK）撮影、曲亭馬琴を紹介

28日 歴史教室「わたしの町の歴史探訪―南条・飯沼・古茂口―」開催 43名参加

30日 市内中学校生徒3名が職場体験（～11月1日）

◆11月

21日 市立館山小学校児童2名が職場体験

◆12月

2日 インターネットラジオ「たなか久美の御城勉強ラヂオ」取材、甲冑着用体験を紹介

◆平成31年1月

1日 館山城正月臨時開館（～3日）

25日 博物館協議会開催

◆2月

2日 特別展「房州と江戸・東京―海を行き交う人・モノ・文化―」開催（～3月17日） 6183名

特別展講演会「近世の房総―特に安房、交流と地域―」開催（講師・青山学院大学・落合功教授）124名参加

寄付資料 一覧

ご協力に感謝します

寄贈資料名	寄贈者（敬称略）
『採茶庵萬里歳旦帖』他	南房総市 座間津禰子
染物店関係資料 館山土産 他	松戸市 笹谷 明
日本赤十字社記念杯	館山市 宮 訓子
柏崎浦絵図	館山市 竹中佑司
房日新聞連載小説「春の國」挿絵	南房総市 山鹿公子
継竿・引札・レコード「花の館山」他	館山市 山田 郁
高野山妙音院寄進脇差請取状 他	館山市 鈴木惠弘
キクメイシサンゴ化石 他	館山市 出口勝則
赤色公衆電話 他	南房総市 福原宣之
サメ頭部標本	館山市 小林康弘
船大工関係古文書 他	館山市 豊崎栄吉
地方馬検査記念杯・古写真 他	松戸市 斉藤和重
炭火アイロン 他	南房総市 小澤忠雄
八犬伝舞踊舞台小道具 他	館山市 瑳川八千代
百年祭記念手ぬぐい 他	館山地区合同祭礼百年祭実行委員会
学校日誌	館山市立館野小学校
「南総里見八犬伝音頭」CD	北海道 松本 昇
「八房と狸」石膏像	南房総市
小原村関係古文書	館山市 山口 寛
香時計	南房総市 保田善雄
大日本国防婦人会襷 他	館山市 青木悦子
八犬伝クリアファイル 他	館山市 山形達哉
大野太平遺稿 他	館山市 大野廣平
豊房村村勢要覧	館山市 前田ひろ子
瑯（はそう）	館山市 三上英男
鉄道開通工事関係書状 他	白井市 山崎弘道
薙刀・山荻神社神主肖像画 他	木更津市 石井豊夫
館山海軍航空隊本部庁舎被災写真	館山市 太田 茂
日露戦役従軍記念杯 他	館山市 鈴木茂則
斉藤光雲画屏風	館山市 笹子三喜男
富崎神戸関係近代文書	東京都 石井雅人

ミュージアム・サポーターの活動

甲冑士・絵図士ともに活動の幅が広がっています。12月2日(日)に、大多喜城博物館からの依頼で甲冑士が出張して着付けを行いました。絵図士は博物館の展覧会とコラボして、新地区展「豊房」の歴史探訪用マップや、特別展に合わせた「房州と江戸・東京を結ぶ文化財」3部作の制作のほか、3月からは過去に制作された文化財マップの展示紹介を始め、月1回の展示替えを行っていきます。